

肺非結核性抗酸菌感染症の治療のため手術を受けられた患者さんへ

福岡東医療センター呼吸器外科では以下の研究を実施しています。

この研究は、過去の診療情報を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」と呼ばれる学術活動です。過去に実施された検査の結果等の診療情報等を利用しますので、患者さんに新たにご負担いただく検査や治療はありません。また、学会で公表する場合も、個人情報の保護には十分配慮し、第三者には誰のものか一切わからないようにします。

患者さんにはご自身の診療情報が使用されることを拒否する権利があります。本研究の対象に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。既に学会が行われている場合はデータを削除できない場合がありますのでご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、患者さんが診療上で不利益を被ることはありません。

【研究課題名】	肺非結核性抗酸菌感染症に対する胸腔鏡手術の検討
【研究実施期間】	倫理委員会承認後～2027年12月31日
【研究実施期間・研究責任者】	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター 呼吸器外科 研究責任者 瀨武 大輔
【対象となる方】	2007年4月から2025年3月の間に呼吸器外科で肺非結核性抗酸菌感染症の治療で入院、胸腔鏡下手術を受けられた36例
【研究の意義、目的、方法】	肺非結核性抗酸菌感染症(以下NTM)に対しては未だ特効薬がないため、空洞や気管支拡張症などの進行した病巣を有するものは内服や点滴の抗菌剤では治療し難い症例もあります。その場合は外科的治療の介入で手術を行うことがあり、病巣を有する肺を切除する事で病状をコントロールして治療していきます。当院では2007年4月～2025年3月の間に肺NTM菌感染症の患者36例に対して胸腔鏡下手術を行っているのですが、その手術結果や術後経過を検証して今後の治療に役立てたいと思っています。炎症性肺疾患に対する肺切除術は胸腔内癒着や炎症性リンパ節の固着などで術中の剥離や血管処理で難渋するケースを多く経験しますが、炎症性症例の中でもNTMによる呼吸器感染症は比較的癒着の少ない印象を持っており症例によっては機能温存や低侵襲を考慮した完全胸腔鏡下手術(以下VATS)でも安全に行う事が可能と考えています。VATSによる肺NTM感染症に対する手術成績を検討して今後の外科治療に役立てたいと考えています

【利用する情報の種類】	肺非結核性抗酸菌感染症の手術例に対し診療記録、臨床検査データ（血液、病理検査結果）、診断用画像（胸部 CT、胸写）。
【個人情報の保護】	研究に際して、生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人が特定できる情報は収集しません。また、研究の結果を公表する際も個人が特定できないように配慮いたします。
【問い合わせ先】	独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター 研究責任者：呼吸器外科 濱武 大輔 住所：〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1 電話番号：092-943-2331（代表）